

鉄斎の七福神

前期 2019年1月5日(土)～2月11日(月・祝)
 後期 2019年2月16日(土)～4月1日(月)
 会場 鉄斎美術館別館「史料館」
 開館時間 9時30分～16時30分 会期中無休



10 七福遊戯図



9 布袋遊戯図

七福神とは、大黒天、恵比須、毘沙門天、弁財天、寿老人、福祿寿、布袋の七柱の総称である。楽しい表情を浮かべて賑やかに集う福德の神々は吉祥の象徴として描かれ、新年の床飾りや縁起物、七福神巡りなどで今日も広く親しまれている。諸仏諸神を敬仰した近代文人画の巨匠・富岡鉄斎（1836～1924）もまた七福神を好み、その姿を描き続けた一人であった。

七福神 室町時代末期に京の町衆文化の中で成立したといわれる七福神だが、仏教、道教、神道の神仏・神仙を中心に構成されていて、その起源はインド、中国、日本の三国にみることができる。インドの武神・財神であった大黒天は、中国を経て密教によって日本に伝えられ、台所の守護神・豊穰の神として民間に受容された。漁業神の恵比須は、記紀神話に登場する事代主命や蛭子神とするなど諸説あるが、唯一日本で生まれた神と考えられている。毘沙門天は軍神・財福富貴の神、弁財天は水の神・音楽と弁舌の神として信仰され、二柱ともインドから渡ってきた。長寿を司る寿老人と福祿寿は道教に由来する南極寿老星を人格化した神仙で、それぞれが異なる容姿をもつが、本来は同一であると捉えられている。大きな袋を抱えた布袋は、唐代末期の実在の禅僧契此といわれ、その円満な風貌から福德の神として信仰を集めた。七福神として成立する前から仏画や禅画、民画などに展開し、多様な姿が描かれていた神々は、個々の性質を持ちながらも「福をさずける」ことを強調した特殊な神格が付与されていった。

鉄斎が描く七福神 特定の師につかず、さまざまな流派の絵画表現を学んだ鉄斎は、若い頃より大津絵の生き生きとした人物表現に興味を抱き、その筆法に倣うことがしばしばあった。江戸時代に滋賀県大津の土産物や護符として流行した大津絵には、七福神の一員である大黒天、恵比須、福祿寿が取り入れられていたことから、鉄斎が描く七福神にも大津絵風の作品が多数見られる。代表的な大津絵画題を一面に描いた、32歳の作《大津絵図》(No.1)や77歳の傑作《擬土佐又平筆法遊戯人物図》(No.5)には、「外法と大黒の梯子剃り」で知られる長い頭部を持つ「外法」こと福祿寿と、それによじ登る大黒天が滑稽に描かれている。「大黒と外法の相撲」に取材した《福神遊戯図》(No.6)では、大黒天と相撲を取り、投げ飛ばされる福祿寿が笑いを誘う。



1 大津絵図



3 七福遊戯図

ユーモラスな大津絵と七福神の親和性が生み出す魅力は、七福神が輪になって弁財天を引き合い戯れる様子を描いた60代の作《七福遊戯図》(No.3)や最晩年87歳の作《七福遊戯図》(No.10)に発揮された。後者では、賛に南宋の洪遵が撰した『譜双』から勝負事の効用を説いた一文を引き、双六をする布袋と

大黒天、大きな鯛を前に酒を酌み交わす恵比須と寿老人、琵琶を弾く弁財天とそれに聴き入る福祿寿、毘沙門天が表情豊かに描かれている。

大津絵風の筆法が活かされた《大布放賭図》(No.8)には、双六で遊ぶ大黒天と布袋を描き、賛には『譜双』に収録された日本の双六の説明を引く。また、墨の濃淡を自在に使った《布袋遊戯図》(No.9)では、明代の『釈氏源流』から禅僧契此の説話を賛に引き、子どもたちと戯れる布袋の姿を描く。歳を重ねるほどに大胆になっていく筆致や遊び心が人物の躍動感を生み、漢籍に学ぶ鉄斎の幅広い知識が作品をより深いものにした。

賀寿を祝う 数え89歳で天寿をまっとうした鉄斎にとって、不老長寿をあらわす寿老人、あるいは同一神とされる福祿寿は好画題であった。中国に起源をもつ吉祥図としてその姿を描き、自身や友人知人の賀寿を祝った。清代初期の画家高其佩の筆法に倣った《朱寿老人図》(No.4)、福を意味する蝙蝠と不老長寿を象徴する仙桃とともに寿老人を描く《寿老人図》(No.11)、子どもが仙桃を捧げる《寿老人像》(No.13)はそれぞれ古稀、米寿、数え89歳を迎えた正月に制作された。《寿老人像》には、長寿を祝う縁起物の「鳩杖」(No.16)を贈られたことを喜び、謝礼として描いた旨を記している。知人に贈った最晩年の《寿老人図》(清荒神清澄寺 鉄斎美術館蔵)の賛「福祿、寿を先と為す」は、まず大切なのは長寿で福と祿はこれに次ぐ、という意である。人生の節目を祝うことを楽しみとしていた鉄斎が、無事に新年を迎え、さらに寿を重ねることの喜びを何よりも尊んでいたことが窺える。



13 寿老人像

新春を飾る本展では、個性豊かな七福神とこれにまつわる《宝来船図》(No.12)、鉄斎が絵付けを施した《宝珠絵槌》(No.15)などの器玩も紹介する。また、初出品の《尾張国鎮座七福神像搦本》(No.7)は、明治に成立した七福神札所「名古屋七福神」等の神札7種を貼り交ぜて軸装し、鉄斎が槌、俵、宝珠、銭をあざやかに描いている。神仏を謹んで祀ることを重んじ、各地の神札・護符の蒐集を娯しみとした鉄斎ならではの作品である。さまざまな角度から表現された鉄斎の七福神をお楽しみいただきたい。

(細里わか奈)

【参考文献】

喜田貞吉「七福神の成立」(『福神の研究』日本学術普及会、1935)、村越英明「鉄斎—吉祥画—」出品目録(鉄斎美術館、1988)、藤田伸也「寿老人鉄斎—富岡鉄斎と吉祥図—」(『MUSEUM』第528号、東京国立博物館、1995)、『七福神信仰事典』(戎光祥出版株式会社、1998)、小松和彦『福の神と貧乏神』(筑摩書房、1998)、奥田素子「鉄斎の祝慶画」出品目録(鉄斎美術館、2007)、柏木知子「鉄斎—われ、丙申に生まる—」出品目録(鉄斎美術館、2016)、飯尾由貴子「鉄斎と大津絵」(『美術フォーラム21』第36号、美術フォーラム21、2017)

《出品目録》

[絵 画]

すべて富岡鉄斎筆

番号	名 称	制作年		年 齢	寸 法(cm)	材質・技法	員 数
1	大津絵図	慶応3	1867	32	133.0×48.8	絹本淡彩	1幅
2	三穂戎図	明治時代		40代	125.7×29.3	紙本淡彩	1幅
3	七福遊戯図	明治時代		60代	30.0×192.8	紙本着色	1巻
4	朱寿老図	明治38	1905	70	124.9×30.9	紙本朱画	1幅
5	擬土佐又平筆法遊戯人物図	大正元	1912	77	138.0×51.2	絹本着色	1幅
6	福神遊戯図	明治～大正		70代	131.2×24.8	紙本淡彩	1幅
7	尾張国鎮座七福神像搦本	明治～大正		70代	154.5×64.8	紙本着色	1幅
8	大布放賭図	大正8	1919	84	136.4×35.3	紙本着色	1幅
9	布袋遊戯図	大正10	1921	86	130.4×31.5	紙本墨画	1幅
10	七福遊戯図	大正11	1922	87	141.6×41.3	絹本着色	1幅
11	寿老図	大正12	1923	88	132.5×32.0	紙本着色	1幅
12	宝来船図	大正12	1923	88	132.3×32.0	紙本墨画	1幅
13	寿老人像	大正13	1924	89	134.6×33.2	紙本着色	1幅

[器玩・遺愛品]

番号	名 称	制作年		寸 法(cm)	員 数	摘 要
14	俵香合	明治～大正		4.2×5.8×4.2	1合	富岡鉄斎作
15	宝珠絵植	大正13	1924	6.6×7.7×14.4	1挺	中島菊斎作・富岡鉄斎筆
16	鳩杖			長183.0	1本	台湾製・鉄斎書付
17	菩提念珠			長33.3	1連	鉄斎箱・袋
18	菩提子念珠			長44.5	1連	鉄斎箱(81歳)
19	菩提子念珠			長59.5	1連	鉄斎箱(82歳)
20	古舶珠数			長33.0	1連	鉄斎箱(83歳)
21	如意			長31.5	1柄	鉄斎書付・箱(89歳)
22	如意			長37.5	1柄	鉄斎書付

・次回展覧会

「鉄斎と茶の湯」

前期：2019年4月6日(土)～5月12日(日)

後期：2019年5月17日(金)～6月23日(日)

会場：鉄斎美術館別館「史料館」

・鉄斎美術館・宝塚市立中央図書館聖光文庫共催企画展

「富岡文庫の世界—鉄斎・謙蔵父子の愛蔵本—」

2018年12月2日(日)～2019年2月7日(木)

開室時間：午前10時～午後5時

休 館 日：水曜日、第2金曜日、年末年始(12月29日～1月3日)

会 場：宝塚市立中央図書館聖光文庫《入場無料》

清荒神清澄寺 鉄斎美術館

〒665-0837 兵庫県宝塚市米谷字清シ1番地 Tel.0797-84-9600 Fax.0797-84-6699 <http://kiyoshikojin.or.jp>

平成30年12月25日 印施